

地域との連携・協働による新しい高等学校づくり

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」指定校

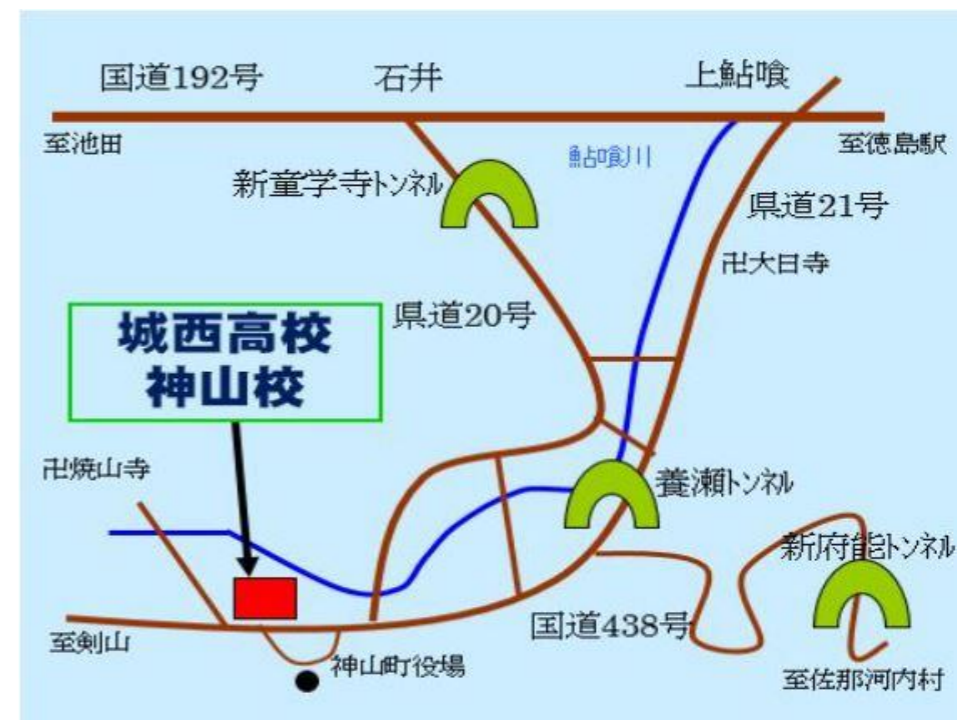
徳島県立城西高等学校神山校の取組

徳島県教育委員会学校教育課

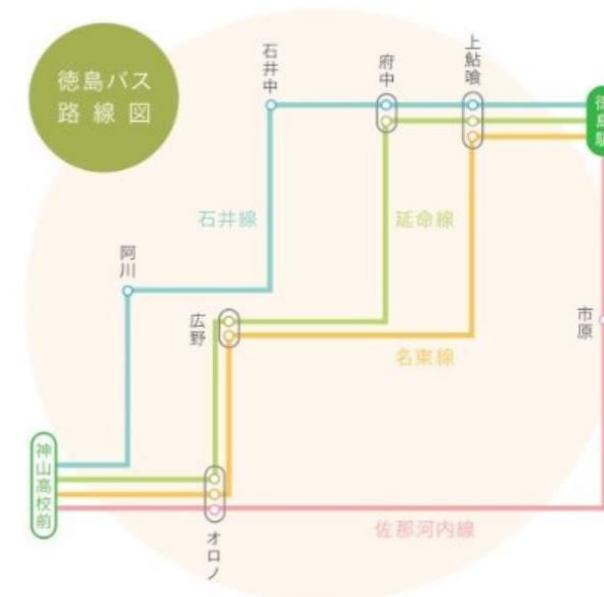
令和元年10月23日(水)

1. 城西高校神山校について①

- 人口約5,300人の中山間部の神山町内にある唯一の学校
- 昭和23年に徳島農業高等学校の分校として開校以来,地域の産業振興に貢献
- 徳島駅方面からバスで約70分
- 2019年度から3年間,「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」の指定を受ける



(学校HPより)



(「学校案内2020」より)

1. 城西高校神山校について②

2019年度から校名変更, 学科再編

校名: 城西高等学校神山分校 → 城西高等学校神山校

学科: 小学科制 → 類・コース制

現2・3年生	現1年生から
大学科: 農業科 小学科: 造園土木科(定員20名) 生活科(定員10名)	大学科: 農業科 類 : 地域創生類(定員30名) コース: 環境デザインコース 食農プロデュースコース ※入学時一括募集, 2年進級時にコース選択

2019年度より神山校が 新しく生まれ変わりました

地域に学び、未来を拓く人づくりへ向けて、神山分校から神山校へ。
学科も新しく「地域創生類」に変わりました。
3年間を通して、学校と地域の中で多様な経験を積み、
自分で物事を考え・行動する力を育みます。

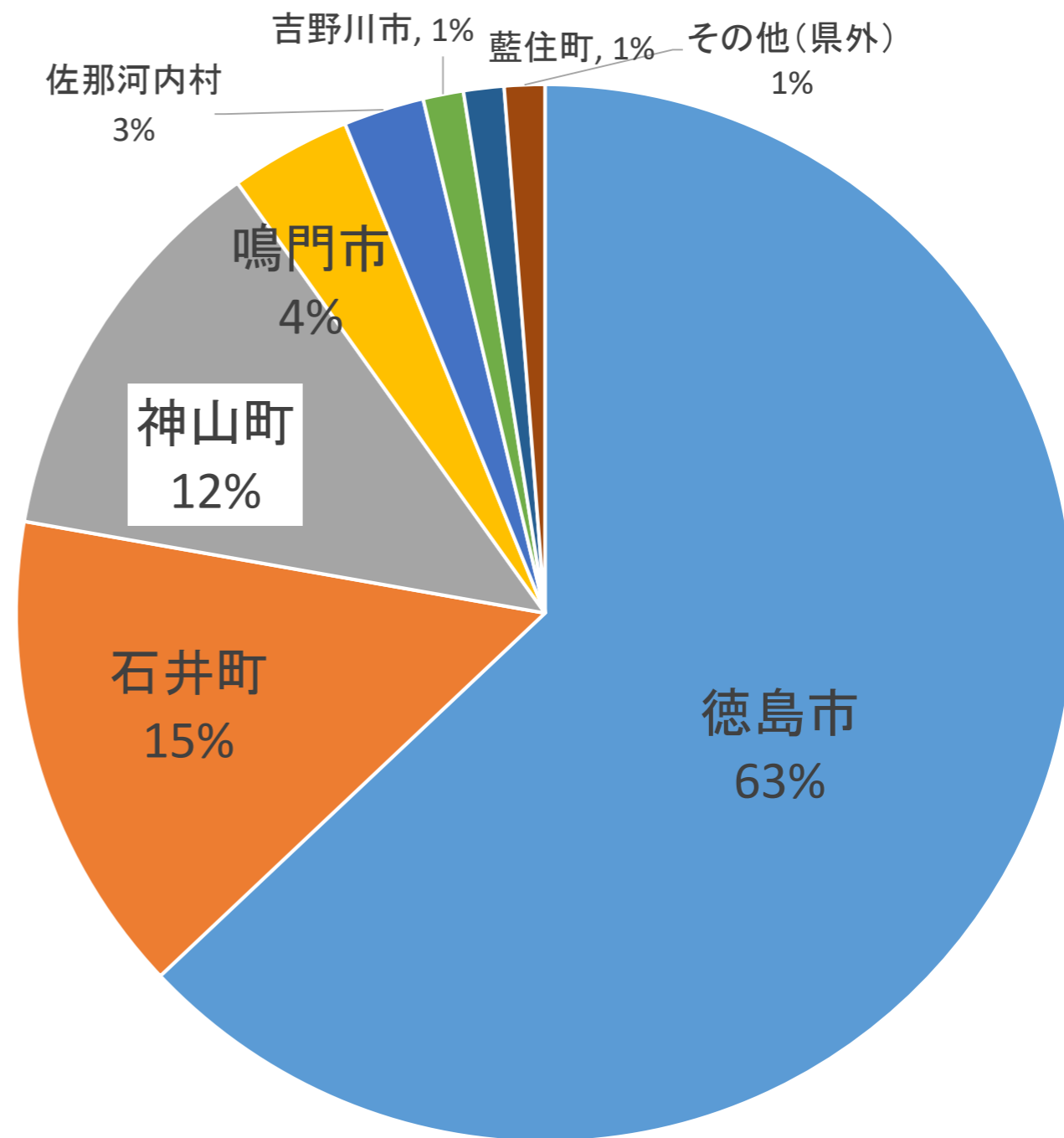


(「学校案内2020」より)

1. 城西高校神山校について③

神山校生の出身市町村別割合

	人数
徳島市	51
石井町	12
神山町	10
鳴門市	3
佐那河内村	2
吉野川市	1
藍住町	1
その他(県外)	1
合計	81



平成31年4月16日現在
(「令和元年度 学校要覧」より)

※神山町について

- 「創造的過疎」を合い言葉の一つに、過疎化の現状を受入れながらも町外から若者やクリエイティブな人材を迎え入れるなど、多様性に富む働き方や暮らし方が実現できる様々な取組を重ねる。
- 2004年には四国で始めて町内全戸に光ファイバーを整備。IT系のベンチャー企業などがサテライトオフィスを開設するなど注目が集まっている。
- 2015年に創生戦略「まちを将来世代につなぐプロジェクト」を策定。翌2016年、このプロジェクトをスピード感と柔軟性をもって実現してゆくために官民協働の一般社団法人神山つなぐ公社を設立。

2. 研究開発の概要①

【研究開発名】

地域で学び地域と育つ神山校
～中山間地の地域内循環モデルの構築～

【事業の目的】

- 1 持続可能な社会の発展に貢献する地域の担い手を育成
- 2 地域振興の核としての高等学校の機能強化

2. 研究開発の概要①

事業目的1: 持続可能な社会の発展に貢献する地域の担い手を育成

【事業を通じて育成をめざす地域人材像】

- これからの「食農」・「環境」等をめぐる感性と知識・技能を身に付けた人材
- 様々な年代や職種の人と関わり合い、物事を推進することのできるコミュニケーション能力を持った人材
- 所属するコミュニティや関わった地域などのために貢献しようとする意欲を持った人材

【卒業までに生徒に習得させる具体的な能力】

- 自身の感情や考えを表現し、発信する「伝える力」
- 多様な価値観を持つ他者と関わり、物事を進める「協働する力」
- 体験から新たな課題を獲得し探究・解決しようとする「深める力」
- 「基礎学力」と環境・食農等に関する「専門的知識・技能」

2. 研究開発の概要②

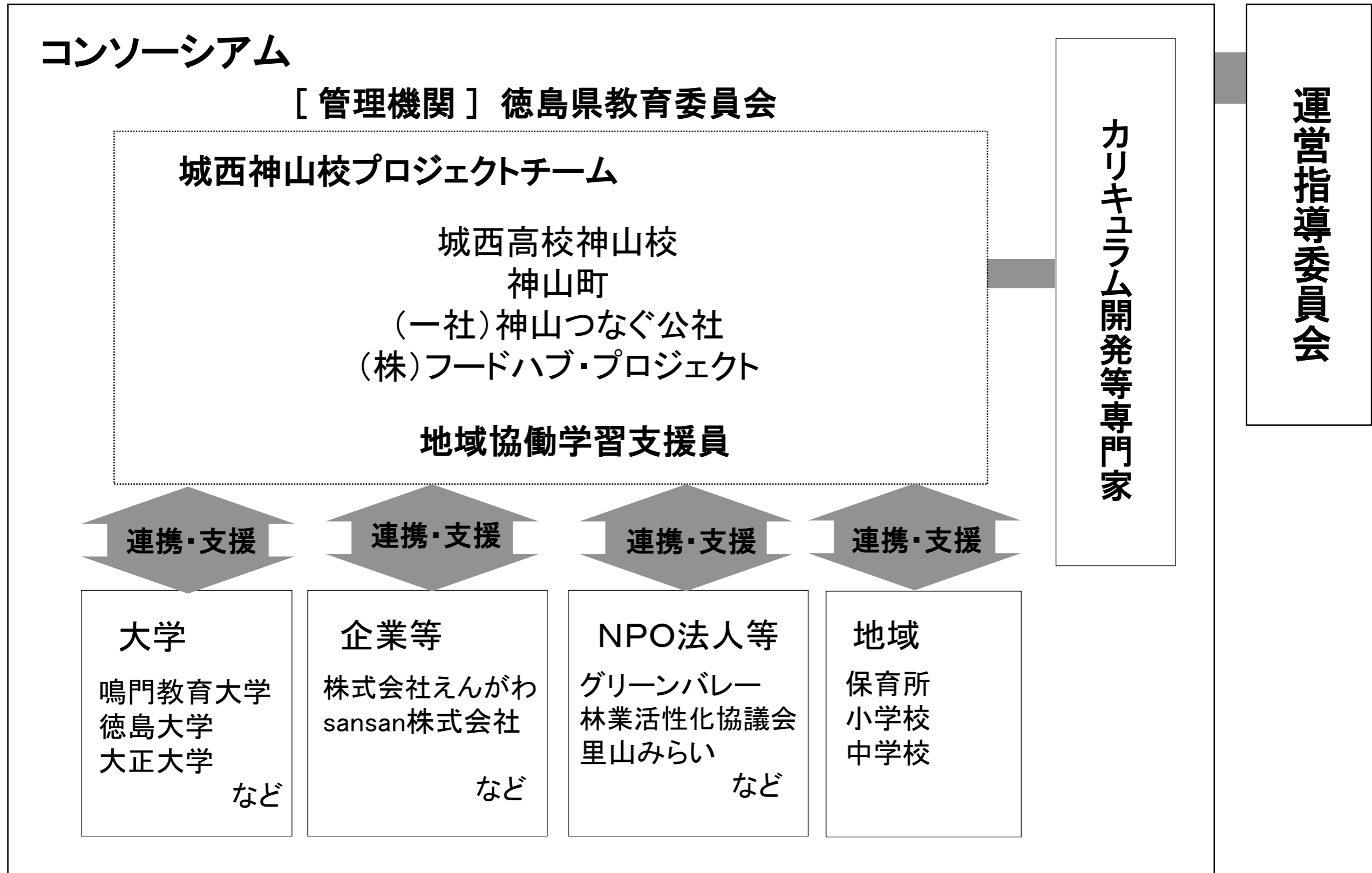
事業目的2: 地域振興の核としての高等学校の機能強化

【地域振興の核としての高等学校の機能強化に向けた取組】

- 時代の変化とともに拡張する「環境」・「食農」の概念を取り入れたカリキュラムの整備
- 生徒の期待と学習内容を持続させた進路の開拓
- 6次産業化の流れを学べる教育環境の拡張による地域の生産・交流拠点の創出

3. 研究開発の体制

【研究組織概要図】



4. コンソーシアムに期待する役割

- 交流・実践の場の提供
- 授業や教員研修への専門人材の派遣
- カリキュラム開発への指導・助言
- 高校生と地域課題とのマッチング

5. コンソーシアムと連携した主な研究開発内容

学校設定科目「**神山創造学**」を事業目的につながるように再構築する

神山創造学

(2017年から開設)

生徒が町内のフィールドワークを通じて歴史・文化・暮らし・産業などの理解を深めるとともに、地域の課題に気づき、自らが探究したいテーマを見つけ、3年次の課題研究(4単位)につなげる。

※「神山創造学」単位数

	1年次	2年次
現2・3年生	2単位	2単位
現1年生から	2単位	4単位(+2単位)

6. 今年度のコンソーシアムと連携した事業内容①

◇生徒の活動

- ・地域の一員としてまちの将来につながる様々なプロジェクトに参画し、地域の課題を実感する(全学年)
- ・様々な職種・年齢の人々と交流する(1・2年)
- ・自ら課題を見つけ、調べる(3年)

◇教職員の取組

- ・生徒の期待と学習内容を生かす進路の開拓(しごと体験やインターンシップ先の交渉)
- ・「食農」や「環境」についての専門性を高める「スタディーツアー」の実施(予定)

6. 今年度のコンソーシアムと連携した事業内容②

【今年度の取組例1】

フィールドワーク



伐採体験



孫の手プロジェクト



集合住宅(どんぐり)プロジェクト



お弁当プロジェクト



6. 今年度のコンソーシアムと連携した事業内容③

【今年度の取組例2】

- ・しごと体験(1年全員)
- ・インターンシップ(2年希望者)
- ・大学生とのワークショップ
- ・J-GAPの取得
- ・耕作放棄地対策
- ・グループや個人による課題の設定と探究
- ・造園技能士検定, 日本農業技術検定などの受検



(森林組合でのしごと体験)

7. 3年間の成果目標(抜粋)

- 本事業に関連する活動での学びを生かして自ら進路を実現する生徒の割合:17%→50%
- 自分たちの取り組みが地域貢献につながっていると感じる生徒の割合:70%
- 高校時代を過ごした地域で働いたり暮らしたい、あるいはその地域に将来的に関わりたいと考える生徒の割合:70%
- 新入生の体験入学参加者割合:30%→90%
(※2019年度入学生:目標60%,結果45%)

8. これまでの成果

- 生徒たちが見つめる課題は一人一人異なるが、少数の教員では個に応じた十分な指導ができない中、インターンシップの受入れ先等、地域住民のサポートで課題研究を進めることができている。
- プロジェクト学習や地域の人との交流を通じて、積極的に他者と関わったり、対話を通じて物事を進めようとする生徒が増えた。
- 2年生で、「将来神山町で農業がしたい」という生徒が2名でてきた。

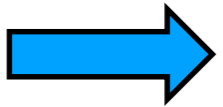
9. これまでに見えてきた課題と考えられる対応

- 農業に従事するための受入れ環境が整っていない。



神山つなぐ公社や神山町との間で、事業を通じた連携を強化する

- 3年次の課題研究において、農業への関心が低い、あるいは他分野への進学・就職を予定している生徒にとっては、授業への意欲をもちにくい。



- 「農業を学ぶ」ではなく、「農業を通して学ぶ」授業への転換を進める
- 3年次の課題研究の設定が主体的な学びとなるよう、2年次までの「神山創造学」の具体的なカリキュラムの検討を急ぐ